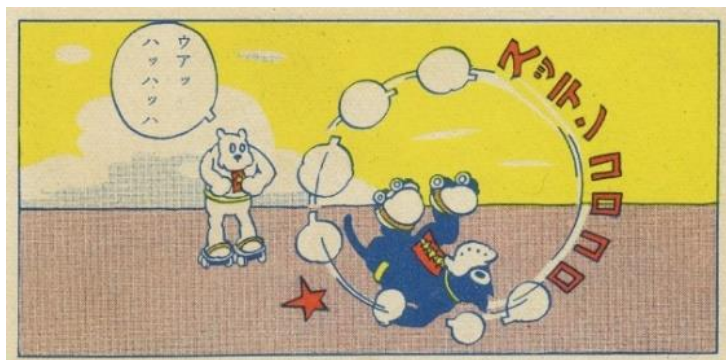


川崎市市民ミュージアム 2019年企画展スケジュール

「都市と人間」をテーマに誕生した川崎市市民ミュージアムは、1988年の開館以来、都市とそこに生きる人間の姿を映し出すメディアとしての複製芸術、また、現代社会へ至る変遷を示す考古・歴史・民俗といった多様な資料の収集・研究・展示を使命としてきました。2019年も、美術館と博物館、二つの機能をあわせ持つ川崎市市民ミュージアムならではの視点で、ユニークな企画展を多数開催いたします。



「のらくろ曹長」の一コマ 1935年
©田河水泡/講談社
川崎市市民ミュージアム所蔵

- ※ 2020年1月以降の企画展につきましては、決まり次第ご案内申し上げます。
- ※ 各企画展のタイトル・内容は変更になる場合があります。あわせて料金等、最新情報はお問い合わせください。

■ 企画展示室

ZooとArt (ずーつとあーと) 色とカタチのどうぶつ展	2019年4月13日[土] - 6月30日[日]
岩合光昭写真展 ねこづくし	2019年4月23日[火] - 6月30日[日]
妖怪／ヒト ーファンタジーからリアルへー	2019年7月6日[土] - 9月23日[月・祝]
なばたとしたか こびとづかんの世界	2019年7月6日[土] - 9月8日[日]
田河水泡生誕 120周年 のらくろと子供漫画の遊園地〈ワンダーランド〉(仮)	2019年9月18日[水] - 11月24日[日]
犬塚勉展 (仮)	2019年10月12日[土] - 12月15日[日]

■ アートギャラリー ※詳細は決まり次第お知らせします。

収蔵品展 グラフィック展 (仮)	2019年7月9日[火] - 8月25日[日]
昔のくらし展	2019年9月3日[火] - 12月1日[日]
2019 川崎フロンターレ展	2019年12月14日[土] - 2020年1月13日[月・祝]

～企画展示室 展覧会概要～

■ ZooとArt 色とカタチのどうぶつ展

2019年4月13日【土】 - 6月30日【日】 企画展示室 2



本展では、当館所蔵の美術作品の中から、どうぶつが描かれた近現代のポスター、マンガ、版画約80点を「リアル」、「デザイン」、「コミカル」の3つの視点から紹介します。同じ種類のどうぶつの絵でも、描き方やアプローチによって、色もカタチも違う十人十色の作品として表現されています。作家たちはどのような意図からモチーフとして選び、描き分けているのでしょうか。その違いを感じ取り、親子で楽しく鑑賞していただける展覧会となっています。

また、こうした様々な表現をご覧いただきながら、どうぶつを好んで描いたフランスのグラフィックデザイナー、レイモン・サヴィニャックにも焦点を当て、その作品をまとめて紹介します。

大橋正《博物誌／ルナール 岸田国土訳》1965年 川崎市市民ミュージアム所蔵

■ 岩合光昭写真展 ねこづくし

2019年4月23日【火】 - 6月30日【日】 企画展示室 1、アートギャラリー1・2・3



©Mitsuaki Iwago

花の陰からふわりと現れたかと思えば、くると身を翻し視界から消える。小さく儚い存在でありながら、飄然として逞しく生きる猫たちの何気ない一瞬をとらえた岩合光昭の写真は、多くの人々の心を惹きつけてきました。

本展では「島の猫」、「やきものの里のネコ」シリーズを中心に、岩合が日本各地で出逢った猫たちの写真、200余点が会場を彩ります。「島の猫」シリーズの作品がまとめて公開されるのは本展が初めての機会となります。

動物写真家として半世紀にわたり、ひたむきに猫に向かい続けた岩合の「ねこづくし」の世界をご堪能ください。

■ 妖怪／ヒト —ファンタジーからリアルへ—

2019年7月6日【土】 - 9月23日【月・祝】 企画展示室 2

本展は、妖怪や人間に関する市民ミュージアムの収蔵品を中心に、「妖怪」と「ヒト」の境界線を探ります。

妖怪は、科学が発展する以前の時代に、当時の考えでは説明できない現象を引き起こす存在として人々に畏られていました。不可思議な現象だけでなく、普通とは違う異形の存在もまた、妖怪になぞられて伝えられています。このように畏怖の対象として認識されてきた妖怪ですが、近代を迎え技術が発展すると、目に見えない存在よりも人間そのものによって生みだされる怖さが浮き彫りになっていきました。

本展では、近世から近代にかけて人々が抱いた恐怖や畏怖の対象が、ファンタジーからリアルになっていく様子を、市民ミュージアムの多様な収蔵品から辿ります。



「寛永年中豊後肥田ニテ捕候水虎之図」江戸時代後期 川崎市市民ミュージアム所蔵

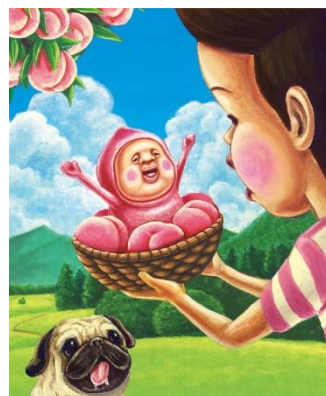
■ なばたとしたか こびとづかんの世界

2019年7月6日【土】 - 9月8日【日】 企画展示室 1

累計 270 万部突破の人気書籍シリーズ「こびとづかん」の原画やフィギュアの展示を中心に、作者なばたとしたかの世界に浸ることのできる展覧会。

一度見ると忘れることのできない強烈な印象のなばた作品。でも「こびとづかん」で描かれる不思議な生き物「コビト」に子どもたちが興味と関心を持ち続けるのは、コビトの存在する世界にいつの間にか入り込んでしまうから。原画を見るとさらに感じられる力強さと緻密さ、そして「こびとづかん」以外の作品からも感じられる独特の世界をどうぞお楽しみください。

絵本『こびと桃がたり』（なばたとしたか作／ロクリン社）より



■ 田河水泡生誕 120 周年 のらくろと子供漫画の遊園地〈ワンダーランド〉（仮）

2019年9月18日【水】 - 11月24日【日】 企画展示室 1、アートギャラリー 1



「のらくろ」と戦前期のマンガ単行本
川崎市市民ミュージアム所蔵

2019 年は漫画家・田河水泡(1899-1989)の生誕 120 年にあたります。代表作である「のらくろ」は『少年倶楽部』(大日本雄弁会講談社)昭和 6 年 1 月号から連載が始まり、瞬く間に大人気となりました。その成功は漫画だけに留まらず、演劇やアニメーション映画、レコード、人形やお菓子のおまけなど多方面にわたり、時代を代表する文化的なアイコンとなります。

田河のもとには漫画家を志す才能豊かな弟子たちが集まり、他の出版社も漫画分野に参入し始めたことで新進の漫画家たちも登場、大量の子ども向け漫画が市場に登場することとなります。そこに広がっていたのはワンダーランドとも言える、自由奔放な想像力とダイナミックに変化していく表現の世界でした。このなかで醸成された豊潤な子ども向け物語漫画の潮流は、戦中を挟んでも引き継がれ、戦後、手塚治虫など新たな才能を育む土壌として漫画文化を大きく躍進させる原動力となっていたのです。

現在、日本を代表する文化の一つとなった物語マンガ、それに派生したアニメーションなどのメディアミックスは、こうした流れの中で誕生し発展してきました。まさに田河水泡と「のらくろ」はクールジャパンの源流にあるといえます。

本展では明治から始まる子ども向け漫画の歴史を踏まえ、田河水泡が戦前期の漫画分野に与えた影響を軸に、「のらくろ」と共に昭和戦前期に花開いた知られざる「子ども漫画」の豊かな世界を再発見します。

■ 犬塚勉展（仮）

2019年10月12日【土】 - 12月15日【日】 企画展示室 1

犬塚勉(1949-1988)は川崎生まれ、東京学芸大学を経て、小学校や中学校の美術教師をしながら、画家となることをめざしていました。独自の画風を確立した矢先、谷川岳で 38 歳の短い生涯を終えています。

志半ばとはいえ、遺された作品は、遺族によって大切に保管されていました。そして、没後 20 年にあたる 2009 年 7 月に放送された日曜美術館で作品が紹介されると、「犬塚の風景画」は多くの人を魅了します。

犬塚の作品は、ある特定の場所を精密に描いたものですが、精緻に再現された風景でありながら、誰もが記憶の中にある、ある日の風景を想起させ、懐かしささえ感じさせます。本展覧会では、犬塚勉が画家としてのはじまりから、画風を確立させた晩年の 5 年間の作品まで 100 点を展示し、画家・犬塚勉の足跡をたどります。



犬塚勉《梅雨の晴れ間》116.7×72.7 1986 年
アクリル、キャンバス 個人蔵

◇ その他 施設のご紹介

～ 映像ホール（定員 270 名）～



開館当初からコレクションしている戦後独立プロダクションの作品や海外作品などの所蔵品を活用しながら、フィルム上映を定期的を実施。日本の美術館・博物館では数少ない映画部門があるフィルム・アーカイブ施設として、映画を収集・保存・上映しています。フィルム上映に加え、2016 年には 4K 対応のデジタルシネマプロジェクターを導入。映画担当学芸員がテーマごとにセレクトした特集上映を通じ、映画ファンから地元の方まで、心に残る劇場体験をお届けします。

- 【基本料金】一般 600 円、65 歳以上・大高生 500 円、小中学生 400 円
- 【チケット販売】10：00～15：00 まで（12：00～13：00 は販売窓口休止）
- * 1F 総合案内にて当日先着順で販売。定員に達し次第、販売を終了。
- * 定員 270 名／各回入替制／自由席／15 分前開場

4 月の特集 ポーランド映画祭 in Kawasaki

2019 年 4 月 6 日【土】 - 4 月 21 日【日】の土日

ポーランドの映画産業は第 2 次世界大戦による戦災で荒廃しましたが、1950 年代半ばからワイダやコンヴィツキ等「ポーランド派」と称される作家が現れ、国際的に高く評価されるようになりました。それに続いてポンスキーやスコリモフスキ等による 1960 年代の新しい映画は、世界各地で興ったニューウェイブの文脈においても注目され、その後も活躍を続ける数々の映画人を輩出しました。

本特集では、デジタルリマスターで蘇った 4 つの名作で戦後ポーランド映画史の重要な流れをたどります。また、現在のポーランド映画界を代表する監督のひとりであるシュモフスカの 2 作品を上映し、戦後ポーランド映画史の過去と、現在の新たな視点をご紹介します。



ポーランド映画祭
in KAWASAKI

- * 上映作品：『灰とダイヤモンド』(1958 年)／『水の中のナイフ』(1962 年)／『サルト』(1965 年)
- 『ムーンライティング』(1982 年)／『君はひとりじゃない』(2015 年)／『顔』(2017 年)

5 月の特集 企画展「岩合光昭写真展 ねこづくし」関連上映

2019 年 5 月 3 日【金・祝】 - 5 月 5 日【日・祝】

- * 上映作品：『猫が教えてくれたこと』／『黒猫・白猫』／『こねこ』

※ 5 月中旬以降の特集上映は決まり次第ご案内いたします。

＜川崎市市民ミュージアム 施設概要＞

川崎市市民ミュージアムは、「都市と人間」という基本テーマを掲げて 1988 年 11 月に開館した博物館と美術館の複合文化施設です。



- 住所：〒211-0052 神奈川県川崎市中原区等々力 1-2（等々力緑地内）
- 開館時間：9:30 - 17:00（入場は閉館の 30 分前まで）
- 休館日：月曜日（祝日の場合は開館）、祝日の翌日（土日の場合は開館）、年末年始
- 観覧料：企画展、アートギャラリーは展覧会により異なる。博物館展示室は無料。
- ※ 障害者手帳等をお持ちの方およびその介護者は無料。
- ※ 20 名以上の団体でご利用いただく場合、割引有。
- アクセス：JR・東急「武蔵小杉」駅北口 1 番乗り場からバスで約 10 分「市民ミュージアム前」下車すぐ

【プレスリリースのお問い合わせ】 川崎市市民ミュージアム 営業・広報担当 鋒山・石澤・滝口

TEL：044-754-4500（休館日を除く 9:30 - 17:00） FAX：044-754-4533

MAIL：pr_kcm@kawasaki-museum.com

HP：http://www.kawasaki-museum.jp/

* 指定管理者：アクティオ・東急コミュニティー共同事業体